

EU Indicators

発表日: 2019年3月22日(金)

欧州経済指標コメント: 3月ユーロ圏PMI速報

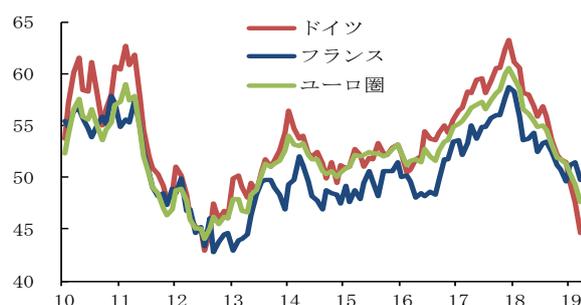
～景気底打ち期待を裏切るマインド再慎重化～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

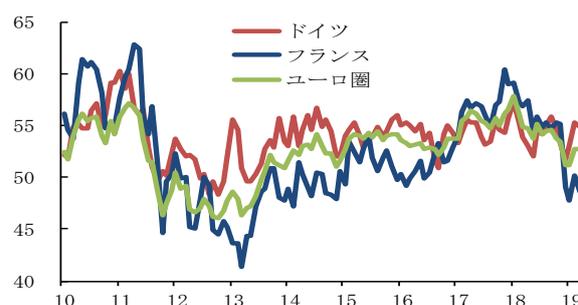
- 前月に6ヶ月振りに改善モメンタムが加速したユーロ圏のPMI総合指数は、3月の速報値でモメンタムが再鈍化した。昨年12月と今年1月の水準を辛うじて上回ったものの、フランスの黄色いベスト運動の沈静化による押し上げ効果が剥落、製造業部門の業況悪化が一段と鮮明になった。発表元のIHS Markitによれば、同指数の水準は1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率が前期比+0.2%程度に相当。製造業部門の落ち込みを、サービス業の堅調が下支えしている。
- 速報段階で入手可能な国別・業種別の動向は、ドイツで製造業の悪化モメンタムが一段と加速、約6年半振りの水準に低下した一方で、サービス業が3ヶ月振りに改善モメンタムが鈍化したものの、高水準を維持した。製造業の構成項目では、生産が約6年半振り、受注が約10年振りの水準に落ち込み、雇用判断が3年振りとなる50割れを記録した。フランスでは製造業が幅広い構成項目で悪化して3ヶ月振りに、前月に持ち直したサービス業も2ヶ月振りに50を下回った。
- ドイツを中心にサービス業の堅調が景気の底割れを防いでいる。ドイツのサービス業は、ヘッドラインの活動指数に加えて、受注や雇用判断も昨年12月から今年1月にかけての慎重化から再加速している。ただ、製造業を取り巻く不透明な環境継続が業況の慎重化につながっており、同部門の雇用判断が崩れ初めている。今のところ底堅いサービス業にこうした影響が波及すれば、景気は下支え役を失う。中国の景気対策や米中貿易戦争の一時停戦などの影響が製造業の業況底打ちに現れるのが先か、サービス業の支えが細るのが先か、景気は重要な分岐点にある。

■ユーロ圏：製造業PMI



出所: IHS Markit

■ユーロ圏：サービス業PMI



出所: IHS Markit

■購買担当者指数 (PMI、季節調整済み)

		2018				2018				2019					
		2Q	3Q	4Q	1Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ユーロ圏	総合産出指数	54.7	54.3	52.3	51.4	54.9	54.3	54.5	54.1	53.1	52.7	51.1	51.0	51.9	51.3
	製造業購買担当者指数	55.6	54.3	51.7	49.1	54.9	55.1	54.6	53.2	52.0	51.8	51.4	50.5	49.3	47.6
	サービス業業況指数	54.5	54.4	52.8	52.2	55.2	54.2	54.4	54.7	53.7	53.4	51.2	51.2	52.8	52.7
ドイツ	総合産出指数	54.2	55.2	52.4	52.1	54.8	55.0	55.6	55.0	53.4	52.3	51.6	52.1	52.8	51.5
	製造業購買担当者指数	57.0	55.5	51.8	47.3	55.9	56.9	55.9	53.7	52.2	51.8	51.5	49.7	47.6	44.7
	サービス業業況指数	53.2	55.0	53.3	54.4	54.5	54.1	55.0	55.9	54.7	53.3	51.8	53.0	55.3	54.9
フランス	総合産出指数	55.4	54.4	52.3	49.1	55.0	54.4	54.9	54.0	54.1	54.2	48.7	48.2	50.4	48.7
	製造業購買担当者指数	53.6	53.1	50.6	50.8	52.5	53.3	53.5	52.5	51.2	50.8	49.7	51.2	51.5	49.8
	サービス業業況指数	55.9	55.0	53.2	48.9	55.9	54.9	55.4	54.8	55.3	55.1	49.0	47.8	50.2	48.7

出所: IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

